



TITLE:

公開シンポジウム「中韓日シンポジウム アジアにおけるPISA問題」 2011年度: 質疑応答

AUTHOR(S):

CITATION:

公開シンポジウム「中韓日シンポジウム アジアにおけるPISA問題」2011年度: 質疑応答.
子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年
度): 437-440

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179652>

RIGHT:

質疑応答

質問

陸先生、白先生に共通する質問として2点伺います。

一つめの質問です。先ほど杉本先生のご報告でも、「アジア型高学力」というものが、やや否定的な評価で語られるという内容がありました。そうはいってもパフォーマンス評価を取り入れるなど、非常に多角的な取り組みをされておりますが、上海、韓国のPISAの成功というのは果たして旧来の「アジア型高学力」の現れなのか、それとも、異なる教育の取り組みの現れなのか、どういうふうに評価されるのかということを伺いたいと思います。「アジア型高学力」というのは、否定的に評価されがちですよね。それは、今の上海と韓国に当てはまるのかどうか、それが一つめの質問です。つまり、受験対策でガリ勉をするというスタイルが今でも韓国では、上海では主流なのかということです。

二つめの質問です。日本の教師というのは、とても忙しい。クラブ活動で休みも取れなかったり、夜遅くまで学校で残業していたりする。韓国や上海の教師の労働条件というのはどういうものなのか、ということです。

楠見先生に、学習指導法略の指導方法についての質問がきています。

陸先生に、ペア制度についてもっと具体的に知りたいという質問がきています。

白先生に、入学査定官の専門性とはどのようなものなのかという質問がきています。

回答

楠見先生

学習スキルや思考スキルを授業のなかでどういうふうに教えるかということに関して、お答えしたいと思います。まず大事なことは、スキルとか、そういうものだけを取り出して指導しようとしても、それはたぶんうまくいかないだろうということです。スキル・トレーニングはうまくいかないということです。

それから第二に、普段の授業をやっていれば、自然に児童・生徒に身に付くだろうという考え方もおそらくはうまくいかないだろうと思います。

大事なことは、普段の授業のなかで教えながら、明示的にスキルを教えるということだと思います。つまり、授業のなかで、たとえば国語の授業でしたら、要約をするときには、どのようなことをしていけば、うまく要約ができるかを教える。あるいは自分自身の経験と結びつけるとか、科目間の連関をつけるとか、ということも、いちばん最初は教師がまずそういうことを児童・生徒に問いを出して、考えさせていく。そういう活動をする中で自然にできるようになると思います。ですから、私の答えは、思考スキルや学習スキルというのは、それぞれの科目のなかで、その文脈のなかで明示的に教えるということ。そして、それが自発的に使えるようになるということが重要だと思います。

陸先生

3つの質問についてお答えしたいと思います。1つ目の質問は、上海の良い結果が、受験能力が高いことからきているのか、あるいは応用能力が高いことからきているのかと理解

したらよろしいでしょうか。上海の学生、中国の学生は、いつも受験能力が高いといわれます。上海の場合は、PISA 以外の他の試験を受けてもたぶん、ある程度の良い成績が出るだろうと私は思います。ただし、ペーパーテストにおいては、上海の学生、生徒たちの成績は中国で必ずしもトップではないと思います。たとえば、そのペーパーテストに暗記型の問題が多ければ、上海以外の省や他の地域の生徒さんの方が、良い成績がでるでしょう。なぜかといいますと、中国の全国大学統一試験、つまり大学入学試験の結果からみると、一流大学に入る上海の学生さんの成績は必ずしも高いとはいえないからです。ただ、大学に入学してから、上海の学生さんの学習能力はどんどん出てきて、彼らは能力を発揮します。

PISA の問題を分析すると、学校の教育の教材で出てきた内容はそれほど多くはないと思います。私たちの分析によりますと、数学の問題の三分の一は、学校教材には出てきていません。それから、読解力の問題の 70 パーセントは学校教材に出ていません。つまり、その多くの内容は、学校で学んだ知識そのものとは認識していません。私たちの試験後のインタビューによりますと、生徒さんは次のように答えています。まず、「試験はやさしい」、「簡単です」ということです。それから、「おもしろい」という答えも出てきています。つまり、そのテストの問題は普通のテストとはまったく違います。準備はまったく要りません。「学校のテストもこんなふうになったらいいな」という声もありました。

今の上海の良い成績の背景には、やはり、上海の 20 年間くらいかけたカリキュラム改革の成果が出てきたのではないかと私たちは思います。つまり、伝統的な教え方、教育では、このような成績は取れないと思います。

2 番目の質問にお答えします。教師の仕事の負担は大きいのかという質問です。私の今の手元の資料では、中国の教師の負担はそれほど大きくない、特に日本などと比べると負担は大きくないと思います。たとえば上海の場合ですと、上海の教師は毎週 15 時間の授業をもっております。それ以外の時間は、教員研修、または生徒のための補習の時間にあてます。あとは、自らが資料を読んだり、論文を書いたりする時間になります。つまり、教師の仕事は充実していますが、授業の負担はそれほど大きくはないのではないかと思います。もう一つの数字から見ることでもあります。上海と欧米のクラス人数を比べると、上海のークラスの人数はだいたい 35~40 人です。欧米はだいたい 20 人くらいだと思います。この数字から見ますと、上海のークラスの人数は多いといえます。ただし、教師と生徒の比率からすると、欧米とだいたい同じです。つまり、生徒は多いですけども、教師もたくさんいますので、それぞれの教師の負担を分担することができます。

上海の教師は、一年に 10 ヶ月は仕事をします。1 ヶ月は休み、残りの 1.5~2 ヶ月間は夏休みになります。その休みの期間は、本当に休むことができます。勿論自らの学習もできますけれども。教員研修は仕事期間内の 10 カ月間以内で行われます。その点では、日本と比べると負担が少ないかなと思います。

収入からみると、上海の教師の収入は、今の上海の中~上位くらいを占めています。公務員と同じくらいの収入で、人気のある職業です。5、6 年前と比べるとかなり変わりました。今は、教育への投資が多くなってきたのです。

3つ目の質問にお答えします。ペア学校についてですけれども、だいたい中心部にある進んだ学校と、郊外にある学校とのペアをさしています。契約のもとで、その内容は3種類に分けられています。一つ目は、副学長が郊外の学校に行って管理することです。二つめは、教師が団体で指導に行くことです。三つ目は、教師がそこへ行ってその場で授業するかたちになっています。2年間の契約で行いますが、あらかじめ設定された水準に達したら、政府が奨励的な政策を行います。お金を出したり、教員人数を増やしたり、といった政策です。

地域内のペア学校は、とても優秀な学校をモデルとして学ぶ場合と、学校間で自由にペアになる場合とがあります。

白先生

アジアが、上位を示していることをとても興味深く思っております。しかし韓国で分析した結果は、このシンポジウムで報告された他の国の結果と少し異なっていると思います。韓国のPISA調査の結果で上位を示している一番の理由は、保護者の私教育費の高さにあります。しかし、お金だけを使っているのではなく、愛情をもって、たとえば子どものためには海外にまで行くという心を持っています。そして、自分の子どものために、夫婦が別々に暮らすという生活ももちろんあります。たとえば、旦那さんが韓国で稼いで、奥さんが子どもと一緒に、子どもが教育を受けるためにアメリカで住むという現象があります。

教師の専門性にも影響があると思います。とくに韓国では、教師という職がとても良い職でありまして、成績が優秀な人が教師を目指しています。教師を尊敬するという気持ちもあります。そして、教師の給料もOECDの平均よりも1.5倍多いのです。

そして韓国は、韓国内だけでなく、世界的コミュニケーションをとろうとする動きが多くあります。

世界的な価値を知っているので、暗記型、多肢選択問題よりは、生活で活用する能力、問題解決能力、キーコンピテンシーといったところに学生は興味関心を持っております。

アメリカのオバマも韓国の教育に対してとてもほめているのですが、それは、2つにわけて考えることができます。1つは保護者の高い教育率、そして教師の専門性です。

先ほど発表しましたが、80パーセント以上の大学進学率があるので、大学入試に関する関心も高いです。したがって、入学査定官制度も韓国の中では話題になっております。この制度は、10年前から行われている入試政策です。韓国の中では、400校の大学のうち60校が入学査定官制度で選抜を行っています。ソウル大学では、10年前から入学査定官制度を準備しており、最初は5パーセントからはじまったのですが、現在では、65パーセントまで、入学査定官制度で選抜しています。その背景には、多くの人の努力、研究があり、体系的な成果を分析するという作業がありました。

そして、入学査定官制度を、公正性をもって行うということは、高校の成績や教育情報を公開することから始まります。韓国の場合は、高校の生活記録部、先ほど言いましたが日本の通知表にあたるものをインターネット上ですべて公開しています。インターネット上で自分が見たいときにはいつでも見るのできる状況になっています。入学査定官制をおこなっている入学査定官は、一年中、入学に関する仕事を行っています。そして、学

校の試験や専門性などを国家が支援しているので、専門性をもった大学入試を行っています。

韓国の場合は、私立高校が 50 パーセントを占めておりまして、私立学校間の生き残り競争が激しいです。学生個人の競争ではなく、学校と学校の間の競争を行うように国が支援しています。すべての教育改革は、学校を中心として行っています。韓国の教育科学技術は、日本の文科省に相当するところですが、国を上げた教育政策として改革を行っています。韓国は教育率が高いため、政治家や保護者まですべての人が教育に対して高い関心を示しています。たとえば、大統領も教育に対して高い興味を持っています。韓国の場合は、教育は、学校、教育者、研究者だけの問題ではなく、国を挙げた全体の問題としてもう 20 年以上とりこんでいます。

ありがとうございました。

(記録・奥村好美)